

F D 公開授業を実施して



教育実践総合センター 助教授 小野 昌彦

平成十二年十二月二十日にFD公開授業「生徒指導Ⅰ」を実施しました。この授業には、受講生約九十名に加え本学教官四名、附属中学校教諭十二名、さらにSCS活用による遠隔合同授業でもあり大阪教育大学十九名、京都教育大学二名の園田からの参加がありました。

講義する側は、私(小野)と私とともにお子さんの再登校を支援したお母さん・前川さん、私たちのスタッフによって再登校した村瀬さんの三名でした。

ここが「裸の王様」

現代の「不登校」解決の糸口の一つは、童話「裸の王様」に出てくる子どもの言葉であるように思うことがあります。子どもが学校

に行くために何も心にみつけないのに学校に行かせようとしたり、また逆に「もっとつらいにちがいない」「苦しいにちがいない」と解釈してみにつけさせることをやめたり……。

このような状態を周囲に気づいてもらうためには、学者の私としては、そういった仮説に基づいた介入による結果(再登校)を出すしかありません。しかし、いつの時代もそうですが純粋な子どもの声、不登校の実際の苦しみ、悲しみ、そして、再登校の喜びを経験した方の声にはかないません。

今回の授業は、「裸の王様」の子どもたちの声を自らの声として「私、心に何もみについてなかったよ」、「子どもにも本気で関わり、みにつけさせてなかった」と語るのを皆さんに聞いてもらうのが目的でした。

この声を聞いた方が、現実を正確に把握し、その子にとって必要なことをみにつけさせることが大切であることを感じ取ってもらえれば私としては望外の喜びです。

人生の一步としての授業

村瀬さん、前川さんにはご足労をおかけしま

したが、ご自分の過去をまとめられ、新しい未来への一歩となる授業ではなかったでしょうか。半年前、「何も言えない」、「決められない」子が、



前川興子さん

「自分」をみつめて皆さんの前で語る時、私も「受講生」の一人となって、心の中で拍手を送っていました。

最後になりますが、今回の授業を実施するにあたりまして多くの方々のご尽力を賜りました。また、この広報紙作成過程におきましても、読者の反応を気遣う声に対して、「いろいろ意見はあると思いますが、自分自身の過去を受け入れ、振り返られるようになったので気になります」という村瀬さんからの声がありました。

このような彼女の成長を確認できた有意義な社会勉強の場を与えていただきましたことに深く御礼申し上げます。

美術教育の授業から

— 学内FD (ファカルティ・ディヴェロップメント) の参観授業を担当して —



美術教育講座 助教授 宇田 秀士

美術題材の追体験

「大昔の 古い紙をつくらう」

私は、幼児から高校までの美術教育の内容と方法を考え実践するための授業

を担当して

いる。昨年

度FD (フ

アカルティ

・ディヴェ

ロップメン

ト)で、公

開し参観し

てもらった

授業は、

「初等科教

育法 (図

工)」という科目で、小学校の図

画工作科向けのものである。

この授業で、まず行っているのは、



現場の小学校で行われている伝統的な題材 (内容) を実際に追体験し、自分なりのものとするのである。平面描画分野題材「大昔の古い紙をつくらう」不思議な〇〇」もそ

のうちのひとつだ。

まず、画用紙、絵の具セット一式、醤油、ソース、コーヒ、紅茶、

の参観授業を担当して

マッチ、蚊取り線香などを用意し、真新しい白い画用紙を「大昔の古い紙」に変身させる活動をおこなう。材料から発想するというのが、一つのポイントで、あまりヒントを言わないようする。

学生は、最初は戸惑いながらも、お互いの活動をみながら、徐々に大胆になっていく。醤油やソースの臭さに耐えながら、紙をくしゃくしゃにしたり、端をちぎったり、蚊取り線香で焼いたりし、ほろほろの古い紙ができあがっていく。

美術題材の追体験 二

「不思議な〇〇」

こうして、工夫してできた古い紙に「不思議な〇〇」を描くことになる。「〇〇」の中には、学生が自由に考えた内容が入るが、「動

物、虫、植物、正倉院展に展示された宝物」などの例示をする。

そして、「大昔に (実在または物語として) 存在した不思議な感じ」を出すために、それを解体・接合・合体させて、形を変化させていく。このとき、ウルトラマン、仮面ライダー、アニメ、神話などに登場するキャラクターも同じ手法でつくられていることをあわせて説明するようにしている。

最後に工夫したネーミングをし、プロフィールを記し、落款となる朱のサインをしてまとめとする。

美術教育の授業づくりは、まずよくねられた題材を体験するところから始まる。そして、その中で楽しかった点、つまらなかった点、難しかった点などをあげ、自分なりの工夫を加えていく。方法に関する視点が形成された上で、指導論を始めるように努めている。

